

◆キヤノン：業務用 4K ビデオカメラのフラッグシップモデル “XF705” を発売

キヤノンは、4K(3840 × 2160)/60P/4:2:2/10bit/HDR 高品位な映像をSD カードに記録可能な業務用 4K ビデオカメラ “XF705” を 2018 年 11 月下旬より発売する。・新製品 “XF705” は、業務用ビデオカメラ [XF] シリーズのフラッグシップモデル。放送局での番組制作や、イベントやコンサート映像などのコンテンツ制作において、高画質な映像記録や映像制作ワークフローの効率化を求めるユーザーに適した業務用 4K ビデオカメラ。優れた光学性能を持つ「L(Luxury) レンズ」、1.0 型 CMOS センサー、映像処理プラットフォーム「デュアル DIGIC DV 6」の搭載により、4K/60P/4:2:2/10bit の高品位な映像が撮影可能。また、放送やライブ配信に適した「HLG(Hybrid Log-Gamma)」とネット配信や映画の制作などに適した「PQ(Perceptual Quantization)」の 2 つの HDR 方式を用途に応じて選択することができる。さらに、汎用性の高い SD カードに HDR 映像を記録できるようにするため、画質を維持しながらデータの高圧縮が可能なキヤノン独自の新しいビデオフォーマット「XF-HEVC」を開発、搭載している。データサイズの軽量化によって、撮影から編集までのワークフロー全体で作業を効率化することが可能。動画撮影に適した滑らかな AF 動作と高い追従性を有する「デュアルピクセル CMOS AF」の採用により、厳しい合焦精度が求められる 4K 撮影時でも、タッチパネルを用いた直感的な操作で、高精度なピント合わせが可能。さらに、フォーカス/ズーム/アイリスが独立したレンズリングや、安定した撮影を可能にするショルダーパッドなどの採用により、プロの幅広いニーズに応え、さまざまな画作りを強力にサポートする高い操作性を実現している。



◆キヤノン：4K 放送用カメラ対応フィールドズームレンズ 2 機種を発売

キヤノンは、世界最広角、世界最長の焦点距離と世界最高のズーム倍率を実現した放送用フィールドズームレンズ “UHD-DIGISUPER 122” と、長焦点距離・高倍率で幅広い撮影領域をカバーする “UHD-DIGISUPER 111” を、2019 年 2 月下旬より順次発売する。新製品 2 機種は、幅広い焦点距離とズーム倍率、高い操作性を備えながら、4K を超える高い光学性能を持ち合わせた放送用フィールドズームレンズ。広角から望遠まで高解像で色再現性に優れた描写ができ、広い競技場でのスポーツ中継やコンサートなどの屋外イベントなどにおいて、臨場感のある高精細な映像の撮影を実現する。4K を超える高い解像力を持ちながら、“UHD-DIGISUPER 122” は世界最広角の広角端 8.2mm から世界最長の望遠端 1000mm の焦点距離で世界最高の 122 倍ズームを実現したキヤノンの放送用フィールドズームレンズにおけるフラッグシップモデル。また “UHD-DIGISUPER 111” は、焦点距離 8.3mm から 925mm の 111 倍



UHD-DIGISUPER 122

ズームで、従来機種「UHD-DIGISUPER 86/UHD-DIGISUPER 90」に対し、さらなる高倍率化を実現している。レンズの最適配置や高度な部品精度・組み立て精度を追求することで、4K を超える高い光学性能を達成しており、画面中心から周辺部の隅々まで、高い解像力と高いコントラストを実現する高精細な映像撮影ができる。また、放送用レンズとして初めてキヤノン独自の特殊コーティング「ASC」を採用することにより、フレアやゴーストを大幅に抑制しており、放送用映像機器市場において普及が進んでいる HDR や WCG の映像撮影に適しており、抜けの良い高階調の映像表現が可能。

◆キヤノン：4K カメラ対応ポータブルズームレンズ “CJ25e × 7.6B” を発売

キヤノンは、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに対応するポータブルズームレンズ「UHDxs」シリーズの新製品として、高倍率 25 倍ズームを実現した “CJ25e × 7.6B” を 2019 年 2 月下旬より発売する。新製品 “CJ25e × 7.6B”



は、2/3 型センサー搭載の 4K カメラに対応する高い光学性能を持ちながら、高倍率 25 倍/焦点距離 7.6~190mm を実現している。さらに、小型・軽量の筐体により高い機動性と操作性を備え、スポーツ中継やニュース撮影などの報道や、屋内外のロケなど、さまざまな用途に適している。蛍石や UD ガラスを採用するとともに、それらを最適配置する独自の光学設計技術により、ズーム全域で画面中心から周辺部まで色にじみや輪郭の色づきを抑制し、高い解像力と高いコントラストを実現した高精細な映像撮影が可能。また、レンズのコーティング技術や鏡筒内面の反射を防ぐ設計により、ゴースト・フレアの抑制や優れた色再現を達成し、HDR や WCG の映像撮影にも適している。高倍率 25 倍ズームにより、広角端 7.6mm から望遠端 190mm までの幅広い焦点距離範囲をカバーし、さまざまな撮影シーンに対応。さらに、新ズーム方式の採用により、ズーム操作による光学性能の変化を抑制し、ズーム全域で画面中心から周辺まで高い解像力と高いコントラストを実現している。4K 光学性能を持ちながら、質量約 1.99kg、外形寸法約 169.6(幅) × 114.1(高さ) × 223.3(長さ)mm と、小型・軽量の筐体を実現し、報道やドキュメンタリーなどの分野に求められる高い機動性を確保し、撮影者の負担を軽減する。

◆富士フイルム：4K 対応放送用レンズ「FUJINON UA46 × 13.5BERD」「FUJINON UA70 × 8.7BESM」を発売



富士フイルム株式会社は、4K対応放送用レンズ「UAシリーズ」に、「FUJINON UA46 × 13.5BERD」(以下、「UA46 × 13.5」)と「FUJINON UA70 × 8.7BESM」(以下、「UA70 × 8.7」)を新たにラインアップした。「UA46 × 13.5」は、4K対応の放送用ポータブルレンズとして世界最高46倍ズーム・世界最望遠621mmを実現したレンズ。「UA70 × 8.7」は、広角8.7mm～望遠610mmまで使用頻度の高い焦点距離をカバーする、箱型タイプのレンズ。「UA46 × 13.5」は2019年5月、「UA70 × 8.7」は2018年11月の発売を予定している。

■「UA46 × 13.5」

4K対応の放送用ポータブルレンズとして世界最高46倍ズームを実現。広角端13.5mmから、世界最望遠となる621mmの焦点距離をカバーする。望遠側の焦点距離を活かすことで、スポーツ中継で遠く離れた選手の表情を高精度に捉えることができるなど、迫力のある映像撮影が可能。最先端の光学設計技術などにより、各種色収差の抑制、鮮やかな色再現、高いコントラストを実現。クリアな4K映像を可能にするとともに、ハイダイナミックレンジ(HDR)を活かした豊かな階調を再現する。独自開発の防振機構とドライブユニットを搭載。揺れの少ない安定した映像撮影と快適な操作性を実現する。

■「UA70 × 8.7」

広角8.7mmから望遠610mmまで使用頻度の高い焦点距離をカバーする70倍ズームを実現。撮影距離に応じて複数のレンズ群を制御する「フローティングフォーカス方式」により、あらゆる撮影距離において高い解像力を発揮。コンサートやライブ中継などで、会場を広く映した撮影から、ステージ上のアーティストにクローズアップした撮影まで、多彩なシーンで臨場感溢れる4K映像を実現する。

◆ソニー：初心者でも手軽に本格的な音楽録音ができる、ハイレゾ対応リニアPCMレコーダー発売

ソニーは、リニアPCM 96 kHz/ 24 bitのハイレゾリューション・オーディオ(ハイレゾ)音源を手軽に録音・再生できる、リニアPCMレコーダー「PCM-A10」を発売する。録音レベルを自動調整する「リハーサル機能」や、録音開始時点の約5秒前から録音を開始することができる「プリレコーディング機能」など、音楽録音が初めてでも操作しやすい機能を充実させた。「PCM-A10」は、ハイレゾ対応マイクユニットを内蔵した可動式マイクの機構を最適化して搭載。



使用シーンに合わせて3つのポジションに調整可能。また、新たにBluetooth(R)接続したスピーカーやヘッドホンでのワイヤレス再生に対応したほか、スマートフォンの録音専用アプリ「REC Remote」からの遠隔操作、内蔵メモリーまたはmicroSDカードの残量がなくなった場合に自動的にもう一方で録音を続ける「クロスメモリー録音」など、多彩な機能に対応した。

(型名)「PCM-A10」

(発売日)10月6日

(カラー)ブラック

(価格)オープン価格

市場推定価格 20,000円前後

◆ソニー：EXTRA BASS(TM)シリーズのGoogleアシスタント搭載スマートスピーカー『SRS-XB501G』など2機種発売

ソニーは、大迫力の重低音と大音量で音楽を楽しめる、Wi-FiとBluetooth(R)に対応したEXTRA BASS(エクストラベース)シリーズのGoogleアシスタント搭載スマートスピーカー「SRS-XB501G」を発売する。防塵(ぼうじん)・防水性能(IP65)に対応した上、バッテリーを内蔵しており、アウトドアなど、



Wi-Fi接続できない環境でもBluetooth(R)対応ワイヤレススピーカーとして使えるため、様々な場所で大迫力の音楽を楽しめる。このほか、同じくEXTRA BASSシリーズから、重低音と防水性能(IPX5)を両立し、気軽に様々な場所に持ち運べる手のひらサイズのワイヤレスポータブルスピーカー「SRS-XB01」も同時発売する。

スマートスピーカー

(型名)「SRS-XB501G」

(発売日)10月6日

(カラー)ブラック

(価格)オープン価格

ワイヤレスポータブルスピーカー

(型名)「SRS-XB01」

(発売日)10月6日

(カラー)ブラック、ブルー、レッド、グリーン、イエロー、ホワイト

(価格)オープン価格

市場推定価格(消費税を含まず)：

スマートスピーカー「SRS-XB501G」 35,000円前後

ワイヤレスポータブルスピーカー「SRS-XB01」 5,000円前後

◆パナソニック：i-PRO EXTREMEシリーズ コンパクトドームネットワークカメラ4機種を発売



パナソニック株式会社は、セキュリティシステム i-PRO EXTREMEシリーズの新製品としてコンパクトドームネットワークカメラ4機種を2018年12月より発売する。本製品は小規模の店舗や、スペースが限られたところにも設置可能な、小型コンパクトサイズ設計となっている。また、小型でありながら、広角のレンズで広い範囲を撮影することができるため、エレベーターの中やATMの前など、被写体と近距離に設置しても、監視範囲を確実に捉えることができる。さらに、内蔵

マイクにより、映像とともに周辺の音声を集音することが可能。
i-PRO EXTREME シリーズの他のカメララインアップと同様に、カラーナイトビジョンによる低照度の環境下でのカラー撮影や、iA（インテリジェントオート）、スーパーダイナミック機能を搭載しており、夜間や照明の暗い場所、照度差の大きい建物のエントランスなどでの監視にも活用することができる。

<主な特長>

1. 小型コンパクトサイズで設置場所をとらず、広角レンズで幅広い範囲を撮影可能
2. 夜間や暗い場所などの低照度環境でもカラーで撮影が可能
3. スマートコーディング技術を搭載したH.265 エンジンを使用し、低ビットレート高画質ストリームを実現

◆グラスバレー：テノンリニアビデオ編集ソフトウェア「EDIUS 9」の最新バージョン「9.3」をリリース

グラスバレー株式会社は、ノンリニアビデオ編集ソフトウェア EDIUS 9 の最新バージョン「9.3」を9月17日にリリースした。EDIUS 9.3 は、世界中のユーザーからリクエストされた新機能を多数搭載したパワフルなアップデート。4K ビデオ編集のさらなる最適化や美しくクオリティーの高いスローモーション映像を実現する新たなモードが加わった。また、ワークフローの改善のために使い勝手の向上や安定性をさらに高めた。

EDIUS 9 Version 9.3 の主な新機能

- ・60/50p タイムコードディスプレイ機能
- ・RED RAW デコードのGPU サポート
- ・ハイクオリティスローモーション アドバンスドマッチングモードの追加
- ・マーカーのカラー機能
- ・デフォルトエクスポージャー機能の向上
- ・クローズドキャプション表示機能（CEA-708 / CEA-608）
- ・Canon 新ビデオフォーマット“XF-HEVC”（H.265）のサポート
- ・Canon “EOS C700 FF” Cinema RAW 5.9K（5952x3140、5952x2532）のサポート
- ・サードパーティーハードウェア“AJA KONA Io 4K”ビデオプレビューのサポート
- ・Mync のアップデート（60/50p タイムコードディスプレイ機能など）
- ・MXF エクスポートの追加（XAVC Intra 4K、AVC Ultra 4K など）
- * EDIUS ターンキーのみ
- ・モニターコントロール機能の向上（EIZO “ColorEdge CG319”、“FlexScan EV2785-HL”の追加）* EDIUS ターンキーのみ

EDIUS 9 のユーザーには、9.3 へのマイナーアップデートが無償で提供される。また、EDIUS 9.3 のリリースにあわせて、EDIUS マイクロサイト（EDIUSWORLD.COM）がリニューアルした。今回の新規コンテンツは「Let's HDR!」。HDR 映像制作の“現在”を記事化した。

◆朋栄：LTO-8 テープ対応の LTO サーバー LTS-80 を発売

データバックアップや二次利用を想定したノンリニア編集素材のアーカイブなど、大容量アーカイブやバックアップ用途向けの製品として、最大転送速度300MB/秒（2.4Gbps）の LTO-8 ドライブを搭載した LTO サーバー LTS-80 を発売した。



LTS-80 は、ネットワーク上にあるファイルサーバーと同様に、ファイルの種類やフォーマットに依存することなく、動画ファイルはもちろん、静止画ファイルや文書ファイル、ノンリニア編集のプロジェクトファイルなど、各種ファイルを保存できる。バックアップ時には、LTO テープへの保存と同時に、LTS-80 に USB 接続した外部 HDD あるいは同一ネットワーク上にある NAS にコピーすることもでき、よりフレキシブルな運用が可能になる。より高速なデータアクセスを実現するため、10GbE を使用した高速インターフェースも追加可能。RJ45 コネクタまたは SFP+ コネクタ経由の光トランシーバーのインターフェースを選択できる。LTS-80 は、映像ファイルを管理するための LTR ブラウザーや MAM 機能を追加する LTS-MAM を追加することが可能。LTS-MAM オプションにより、LTO テープの映像やサムネイル、プロキシ映像、メタデータなどの情報を LTS-MAM データベースで管理するとともに、関連データを添付ファイルとして保存することができる。LTS-MAM データベースには、LAN 接続した PC の Web ブラウザーからアクセスすることが可能。各種コーデックオプションを追加することにより、映像ファイルのアーカイブ時に、サムネイルとプロキシ映像ファイルを自動的に生成することが可能になる。LTR ブラウザーや LTS-MAM と連携して、LTO テープ内の映像ファイルから必要な部分を別の映像ファイルとして生成するパーシャルリトリブ機能にも対応できる。従来の LTS サーバー/LTR ビデオアーカイブレコーダー製品を併用して、LTO-5/LTO-6 テープからスムーズに環境移行を図るためのオプションを設定。LTS-80 と LTS/LTR 製品を LAN 接続して 2 台間でテープコピーするためのオプション LTS-I-CP や、LTS/LTR 製品でアーカイブした複数の LTO-5/LTO-6 テープから 1 本の LTO-7/LTO-8 テープにまとめる際にファイル名の重複を事前に確認、修正してからコピーする事が可能な LTO マイグレーションソフトウェア LTS-MGS を用意している。

型名: LTS-80 発売時期: 発売中 価格: 140 万円(税別) ~

型名: LTS-I-CP 発売時期: 発売中 価格: 30 万円(税別)

型名: LTS-MGS 発売時期: 発売中 価格: 30 万円(税別)

◆朋栄：ユニバーサルシステムフレーム USF-105AS を発売

12G-SDI 対応 USF モジュールに対応したユニバーサルシステムフレーム USF-105AS を 9 月末に発売する。また、新たな 12G-SDI 対応 USF モジュールとして、フレームシンクロナイザーモジュール USF-105FS-12G と音声マルチプレクサー/デマルチプレクサー USF-101MDX4-12G/101MDX8-12G を追加する。

USF-105AS は、1U ラックマウントサイズのユニバーサルシステムスレーム、USF-105S の後継製品となり、12G-SDI 対応モジュール

ルを挿入して使用可能。1Uの省スペースなフレーム筐体に最大5枚のUSFモジュールを搭載することができる。BBまたは3値シンクによるGenlockに対応しており、本機に実装した全てのUSFモジュールにGenlock信号を供給可能。電源二重化にも対応し、安定した運用が可能。電源ユニット、USFモジュールは、本体の電源を切ることなく、前面からホットスワップ交換することができる。USF-105ASには、スイッチングハブ機能を内蔵。ネットワーク接続したPCのWebブラウザを使用して、本体の状態確認や設定変更、挿入した全てのUSFモジュールの状態確認や設定を変更可能。SNMPによるフレーム稼働状態の監視にも対応している。

USF-105FS-12Gは12G-SDIに対応したフレームシンクロナイザーで、1スロットで1入力5出力に対応する。12G-SDIとquad link 3G-SDIを相互に変換するGearbox機能、カラーコレクション機能、AVDL機能を搭載している。

12G-SDIに対応した音声マルチプレクサー/デマルチプレクサーは2スロットを使用し、AES入出力4系統を持つUSF-101MDX4-12GとAES入出力8系統を持つUSF-101MDX8-12Gで構成する。SRC(サンプルレートコンバーター)機能を有し、非同期AES信号のマルチプレクサー/デマルチプレクサー処理が可能。LTC入出力(切換)にも対応する。

型名: USF-105AS 発売時期: 2018年9月末 価格: 17万円(税別)

型名: USF-101MDX4-12G 発売時期: 2018年9月末

価格: 49万5千円(税別)

型名: USF-101MDX8-12G 発売時期: 2018年11月末

価格: 55万円(税別)

◆ブラックマジックデザイン：ニュージーランドのDepartment of Post、HDRおよび4KのポストプロダクションにDaVinci Resolve 15を使用

ニュージーランドのDepartment of Postが、数多くの映画、CM、テレビ番組制作におけるHDR/非HDRの作業にDaVinci Resolve 15を使用していることを発表した。これには、人気テレビ番組「Cul De Sac」を始めとする多くのプロジェクトのカラーコレクション、コンフォーム、VFXの作業などが含まれる。

Department of Postは、オーストラリアおよびニュージーランド有数のポストプロダクション・スタジオで、総合的なポストプロダクションのサービスを提供している。これには、ニュージーランド国内だけでなく世界各地の映画やテレビ制作におけるDIT、編集、オンライン、フィニッシング、カラーグレーディング、オーディオが含まれる。最近では、同社はニュージーランド初となるHDR完全対応のポストプロダクションのワークフローに着手することに焦点を合わせており、今まで以上に幅広い制作を手掛けられるように、DaVinci Resolve Studioをその中核として使用している。オーストラリアおよびニュージーランドにおけるトップクラスのHDRスイートを有するDepartment of Postは、UHD/HDRプロジェクトのポストプロダクション・ソフトウェアとしてDaVinci Resolve 15を使用しており、すでに数多くの国際的なプロジェクトのHDR作業の実績がある。

「ResolveのおかげでHDRワークフローが簡潔になりました。

Resolve 15で搭載されたHDRの内蔵スコープは素晴らしいですね。特にResolveのカラーマネージメントをよく使用しています。今や、プロジェクトはSDRとHDRで納品されますが、特にResolveのノード構成は、複雑なワークフローを扱う際に助かりますね。締め切りまでに両方を仕上げるすることができます。Resolveのカラーマネージメントは、ACESのワークフローと似ていますが、私たちが扱う幅広いプロダクションでより使用しやすくなっています。」と語るのは、Department of Postの運営責任者であるケイティ・ヒンセン(Katie Hinsen)氏。

Fusion Studio VFXがDaVinci Resolve 15に組み込まれたことで、Department of Postは、グレーディング、コンフォーム、VFXを1つのアプリケーションで実行できるようになった。「近日公開予定の映画で、Resolve 15のFusion機能を使ってVFX合成の作業を行いました。画面やバックグラウンドの差し替えです。すべての作業をResolve 15で行えるので、とても便利で、時間を大幅に節約できました。」

HDR以外のプロジェクトで、Department of PostがDaVinci Resolve 15を使用したのは、ニュージーランドの人気テレビ番組、「Cul De Sac」。同番組では、コンフォームとグレーディングにDaVinci Resolve 15が使用された。ある日十代の少年少女たちが目覚めると、世界は一変していた。そこに大人たちの姿はなく、テクノロジーも使えなくなっていた。「Cul De Sac」は、何の説明もないまこの黙示録的な世界に取り残された少年少女たちのストーリーである。

「この番組のは、特定のカラーパレットを用いて、黙示録的なルックとフィールを実現しています。これを保つために、Resolve 15の"色相 vs 色相"、"色相 vs 彩度"の機能を重宝しました。また、Resolve 15のOFXレンズブラーを戦略的に使用して、被写界深度を上げることで、登場人物の孤独と絶望といった感情を強調しました。これは素晴らしいツールですね。"ブラーのような効果"ではなく、レンズと同じようなリアルなブラーが得られます。」Department of Postのシニアアカリリストであるジェームズ・ガードナー (James Gardner)氏は最後にこう結んだ。

◆ブラックマジックデザイン：AlphaのVFX制作にFlash Film WorksがFusion Studioを使用

ロサンゼルスを拠点とするVFXスタジオであるFlash Film Worksが、制作会社Studio 8の最新アクションアドベンチャー映画「Alpha」で、VFX/モーショングラフィックソフトウェア、Fusion Studioを使用したことを発表した。

河期を舞台にした壮大なアドベンチャー作「Alpha」は、息を呑むような美しい映像を通して、犬が人類の最良の友となった過程を描き出す。部族の最も勇敢なハンターたちと共に初めての狩りに出かけた青年Kedaは、狩りの最中に怪我を負い、荒野の中たった一人取り残され、突如、自らの力のみで生き抜いていく必要に迫られることになる。群れに取り残された一匹の狼を気乗りしないながらも手はずけ、Alpha(アルファ)と名付けたKedaは、その後、互いに信頼し合うことを学び、通常ではあり得ないような絆を結ぶ。一人と一匹のコンビは、数々の危険や困難に立ち向かい、冬が来る前に故郷に戻るための歩みを進める。

その道のりは危険に満ちており、水面に張った氷が割れ、水の中に落ちたKedaは水中に閉じ込められてしまう。Flash Film Worksのチームは、Fusion StudioでそのVFXシーケンスを作成した。

「氷から水中に落ちるシーンはタンクで撮影され、ロウが氷の代わりに使用されました。しかし、もっとリアルに見せる必要があったため、Fusion Studioでライブフッテージから多くのものを取り除き、3Dオブジェクトを追加しました。これにより、氷が望んだ通りに割れるようにしました」と語るのは、VFX監督のウィリアム・メサ(William Mesa)氏。

「Kedaは水に落ちた瞬間に、強力な水流で押し流されます。この流れを表現するために、Fusion Studioの3Dパーティクルで、水の中に氷のかげらと泡を追加しました。その後、氷河期の魚と水中の景色を合成し、水のシーンに息を吹き込みました」と同氏は続ける。

さらに氷の下に閉じ込められたKedaのシーンで、Flash Film Worksは、Fusion Studioを使用してコーディ・スミット=マクフィーの顔とスタントマンの顔の入れ替えも行なった。次に、Fusion Studioの3Dツールで氷のプロジェクションを行い、氷が覆っている範囲を拡張した。

合成監督のジェレミー・ネルソン(Jeremy Nelson)氏は以下のように説明する。「このシーンでは、狼が氷に閉じ込められたKedaを見下ろしています。一部のシーンはスタントを使って撮影されたので、スミット=マクフィーの顔をスタントの体に合成する必要がありました。この作業には、Fusion Studioのトラッキングツールを用いて、ライブフッテージをトラッキングおよびスタビライズして、フッテージ同士を合成しました。その後、グリッドワーパーで2つの顔をマッチさせ、リタイムツールで微調整したので、顔の動きを体の動きに極めて正確にマッチさせることができました。」

この他にも、Flash Films Worksは同作の他の場面の合成作業にFusion Studioを使用した。「様々なショットに人物を足したり、空中からのシーンに山を追加して景観を変えたりする際に、Fusion Studioは本当に頼りになりました」とメサ氏は締めくくった。

◆ブラックマジックデザイン：韓国オープンサイバー大学、Blackmagic Design製品で制作施設をアップグレード

韓国オープンサイバー大学がBlackmagic DesignのATEM 2 M/E Production Studio 4KおよびATEM 1M/E Broadcast Panelを導入して、ウェブ用の制作施設のアップグレードを行なったと発表した。このアップグレードは、授業の収録およびストリーミングに日常的に使用する制作施設の信頼性を高めるために行われた。

韓国オープンサイバー大学は、韓国最大の学術交流センターで、12万人の学生に対して毎年最低400の講義を開講している。同校の成功は、授業が同校のウェブサイトを通じて配信されていることに起因している。これらのオンライン講義をさらに充実させるために、同校は新たにHD制作スタジオおよびメディアセンターをBlackmagic DesignのATEMスイッチャー、Smart Videohub CleanSwitch 12x12、HyperDeck Studio、Video Assistを中心に構築した。

新しいメディアセンターは、コントロールルームを備えた5つのスタジオで構成されており、高度なマルチメディアシステムには、高品質のデジタルビデオ制作およびネットワークベースのビデオ制作シ

ステムが含まれる。「コンテンツは、入学した学生に対してオンラインストリーミングで提供されているため、機器の選択にあたって主に考慮したことは、日々の使用に耐える信頼性かつ操作のしやすさでした。このプロジェクトの目的は、クロマキーや電子ホワイトボードなどを使用した、Eラーニングのコンテンツ作成用のHDスタジオを構築することでした」と語るのは、同校のコンテンツ開発チーム主任のリム・ジョン・フーン(Lim Jong Hoon)氏。

「このBlackmagic Designのセットアップは、使いやすさにおいて他社製品に比べて優れていますね。セットアップが早く、操作も簡単です。汎用性に優れ、マルチビューやSuper Sourceなどの機能も豊富に搭載している点が特に気に入っています。また、ATEM Software Controlが同梱されていて、SDKが公開されているのも素晴らしいですね。最も気に入っているのは、スイッチャー・スナップショットで異なるスイッチャーの状態を保存できることと、Smart Videohub CleanSwitch 12x12ではソース間をグリッチなしでスイッチングできることです」と同氏は語る。

「今後もBlackmagic Design製品およびSDKを使用して、コンテンツの成長に合わせて、よりシンプルかつ高度なEラーニング制作システムを開発していく予定です。韓国の市場ではBlackmagic Design製品は評判が高く、最も費用対効果に優れているので、これからも調達におけるベストな選択肢であり続けるでしょう」と同氏は締めくくった。

◆AJA：IBC 2018で新たな12G-SDI、IPおよびHDRソリューションを発表

AJA社はIBC 2018において、マルチフォーマットのコンテンツ制作と配信を最適化する新しいツールとアップデートを発表した。これにより最新の12G-SDIおよびHDMI 2.0



テクノロジー、新しく登場したIP規格およびHDR規格やフォーマットについても、プロフェッショナル環境で活用することが可能になる。12G-SDI対応のI/OカードKONA 5から、SMPTE ST 2110対応のレシーバーIPR-10G2-HDMIおよびIPR-10G2-SDI、HDR Image Analyzerまで、AJAの最新製品は、プロダクション、ポストプロダクション、放送、ストリーミングそしてA/Vプロフェッショナルからのあらゆる要望に応える。また同社のKONAやIoシリーズ、T-TAPを含んだI/O製品、旗艦コンバーターFS-HDR、デジタルレコーダー&プレイヤーKi Pro Ultra Plus、そしてH.264ストリーミング/レコーディングデバイスHELOについても、今回アップデートを発表した。

■12G-SDI対応のI/OカードKONA 5

業界で高い評価を得ているAJA KONAシリーズの次世代製品であるKONA 5は、ワークステーションまたはThunderbolt™ 3接続のシャーシ向けの、12G-SDI入力/出力、およびHDMI 2.0でのモニタリング/出力に対応した、8レーンPCIe 3.0ビデオ/オーディオ入出力カード。KONA 5では、1本のケーブルで4K/UltraHDおよびHDのハイフレームレート、ディープカラーやHDRワークフロー

が可能になる。また開発者向けには、AJA SDK を用いることでマルチチャンネル 12G-SDI 入出力が可能になり、複数の 4K ストリームの入力または出力を行うこともできる。

■Desktop Software v15

Desktop Software v15 では、ソフトウェア対応製品に KONA 5 が追加され、パッケージに含まれているアプリケーションプラグインとドライバーによって、Adobe、Apple、Avid、Telestream などの幅広い制作アプリケーションと併せて使用することが可能。また Desktop Software v15 には、AJA Control Room の新しい機能もいくつか追加されている。例えば、AJA ハードウェアが接続されていない場合でも、スタンドアロン型のプロ仕様のソフトウェアプレイヤーとして使うことが可能になった。さらに今回のバージョンでは、KONA シリーズ、Io シリーズおよび T-TAP の一部機能改善も含まれている。2018 年秋 より無料でダウンロード可能になる予定。

■IP ミニコンバーター新製品

SMPTE ST 2110 準拠のビデオ / オーディオレシーバー IPR-10G2-HDMI および IPR-10G2-SDI は、IP 経由での UltraHD / HD 信号を HDMI、HD 信号を 3G-SDI へと変換することができる。加えて、デュアル 10 GigE SFP+ ケージを備えているため、重要な伝送やモニタリング用途での無瞬断切替のために、冗長化を図ることができる。

■HDR Image Analyzer

Colorfront 社のソフトウェアを搭載した HDR 分析およびモニタリング装置 HDR Image Analyzer は、放送、OTT、エンターテイメント、プロダクションおよびポストプロダクション向けの 4K / UltraHD / HD HDR および WCG コンテンツの品質管理 (QC) およびモニタリング用の最新式のツールセットを提供する。

■FS-HDR ファームウェア v2.6

リアルタイム HDR / WCG コンバーター FS-HDR のファームウェア v2.6 では、カラー変換機能の改善、3D LUT のアップロード対応、そして 8K ワークフロー向けに複数の FS-HDR を一斉に操作可能なギャングオペレーション機能も追加になった。FS-HDR ファームウェア v2.6 が提供するさらなる柔軟性により、様々な 4K および HD の SDR および HDR フォーマットでの作業時に、一貫した最終的なルックを得ることができる。2018 年秋 より無料でダウンロード可能。

■Ki Pro Ultra Plus ファームウェア v4.0

Apple ProRes / Avid DNx レコーダー兼プレイヤー Ki Pro Ultra Plus のファームウェア v4.0 では、ファイルネーミング、タイムコードのスーパー出力制御、収録メディアの強制ロールオーバーやオーディオチャンネルのマッピング対応といった、収録時のカスタマイズ機能が改善された。2018 年秋 より無料でダウンロード可能。

■HELO ファームウェア v3.0

H.264 ストリーミング / レコーディングデバイス HELO のファームウェア v3.0 では、新たな機能拡張として、最新の Facebook プロトコルへの対応やシステムおよびネットワークセキュリティの改善、さらには HELO の ウェブ UI において言語表示オプションを選択できるようになる。2018 年秋 より無料でダウンロード可能になる予定。

◆ゼンハイザー：IBC にて最新オーディオツールを紹介

ゼンハイザーとノイマンは Youtuber や Vlogガーから映画のクルー、スタジオ、劇場まで、幅広いコンテンツ制作と制作ニーズに対応する製品を IBC2018 で出品した。

■SK 6212

Sennheiser は Digital 6000 ワイヤレスマイクシステム用の SK 6212 ミニ ボディパック送信機を展示した。このトランスミッターは、超小型の送信機が求められる厳しい使用環境下の放送局、劇場、ライブハウスなどに最適。

■Memory Mic

スマートフォン用のワイヤレスマイクである新しい Memory Mic とビデオアプリは、モバイルジャーナリストやコンテンツクリエイターが、スマートフォンを利用して迅速かつ簡単に録音・録画するためのツールとして有効となるデバイス。小型軽量のワイヤレスマイクは、放送用とも言える音質で、スマートフォンから離れた場所でも機能する。無料の Sennheiser ビデオアプリは、オーディオとビデオのワンタッチ同期、感度選択、スマートフォンで録音された音声とメモリマイクで録音された音声の最適なバランスを選択するミキシング機能を提供する。

■IE 40 PRO

モニター用イヤホン IE 40 PRO は、ゼンハイザーとして全く新しいプロフェッショナル向けイヤホンのエントリーモデル。IE 40 PRO は、あたたかみのある、自然で繊細なサウンドを実現し、厳しいステージの環境下でもアーティストのフォーカスとパフォーマンスコントロールを向上させる。緻密な音質性能は、特許出願中の丈夫で壊れにくいケーブルダクトを含む熟考された機械設計によってもたらされている。

■HD 300 PRO

格式ある HD 250 Linear の伝統を継承する HD 300 PRO モニタリングヘッドホン、カメラ操作とバックステージ通信用の HMD 300 PRO ヘッドセットは、ヨーロッパのトレードショーでの初出品。300 PRO シリーズには、HD 300 PRO と HD 300 PROtect モニタリングヘッドホン(後者は選択可能な ActiveGard 保護機能付)、HMD 300 PRO、片面 HMD 301 PRO 通信ヘッドセットがある。ヘッドセットには ActiveGard、騒音補正、スーパーカーディオイドブームマイクが搭載されているため、騒がしい環境でも、クリアなコミュニケーションが可能。

■MKE Essential Omni / HSP Essential Omni

ラベリアとヘッドセットマイクロフォンのエッセンシャル・オムニ・シリーズもヨーロッパで初披露となる。ゼンハイザーの放送局、音楽シーン、劇場向けのハイエンド向けソリューションと evolution ワイヤレスシリーズの中間に位置するシリーズ。MKE エッセンシャルオムニと HSP エッセンシャルオムニは、MKE 2 と HSP 2 で高く評価されている音質を新しいユーザーに魅力的な価格でもたらす。

■U 67

スタジオのスペシャリスト Neumann は、チューブマイクロフォンの名機 U67 を出展。その滑らかなサウンドと卓越した多様性のために愛されていた U67 は、1960 年代のスタジオにおける代表的な主力商品。オリジナルの仕様に合わせて設計された U67 は、弾性サス

ペンション、マイクケーブル、再設計された NU 67 V 電源を備えている。マイクロフォンはビンテージケース入り。

◆ゼンハイザー：NEUMANN 製マイクロフォンの U 67 Set を発売開始

1960 年から 1971 年まで販売されていた U 67 は当時の現代楽の形成期を通じて、スタジオの主のマイクロフォンとして幅広く活躍した。今のレコーディング業界でもビンテージマイクとしてエンジニアが愛している U 67 が当時の仕様のまま復刻した。



■仕様・スペック

ポーラパターン：無指向、カーディオイド、双指向 周波数特性：20～20kHz 感度(1kHz, 1kΩ)：15/24/16 mV/Pa
 定格インピーダンス：200Ω 定格負荷インピーダンス：1kΩ
 等価ノイズレベル(A ウェイト)：21/17/20 dB-A
 最大 SPL THD 0.5%：124 dB S/N 比：73/77/74 dB
 コネクタ：マイクロフォン本体:7Pin、パワーサプライ出側: XLR3F
 重量：560g 径：56mm 長さ：200mm Article No：008678 EAN Code：4044155223767

■同梱物

・U 67 (チューブマイクロフォン) ・NU 67 V (パワーサプライ、電源ケーブル付属) ・UC 5 (7Pin コネクションケーブル)
 ・Z 48 (ショックマウント) ・ビンテージケース

■価格：オープンブライス(参考売価:¥800,000)

◆ゼンハイザー：ヘッドセット PC 5 CHAT を発売

ゼンハイザー 新しいヘッドセット PC 5 CHAT、Web コミュニケーション、e ラーニング、音楽鑑賞、カジュアルにゲームを楽しむ時、優れた音質を提供する。例えば、インターネット通話などにおいても、高性能ノイズキャンセリング付マイクロフォンにより、通話相手は声を大きく、クリアに聞くことができる。より小さく、より薄いラップトップが市場に登場する中、ジャック 2 つから 1 つになった。PC 5 CHAT 市場はニーズに合わせ、3.5mm プラグ 1 つみを採用している。

■特徴

- ・毎日使っても最適な「軽量」と「快適な装着感」
- ・優れた音質とノイズキャンセリングマイク搭載
- ・3.5mm、4 極端子を装備



■仕様

型番: PC 5 CHAT 型式: ダイナミック・開放型
 周波数特性: 42～17,000 Hz (ヘッドフォン)/ 90～15,000 Hz (マイクロフォン) 感度: -40dB/Pa
 保証期間: 2年 付属品: なし 本体重量: 約15g

◆オタリテック：新製品リリース情報

■ Ehrlund EHR-T

EHR-T は「EHR-M」スタジオコンデンサーマイクロフォンと同じトリアングルカプセルメンブレンを前面と背面に搭載した 2 つのカプセルを 1 つの筐体に搭載したデュアルカプセルスタイルのスタジオコンデンサーマイクロフォン。2 つのカプセルはそれぞれが別々のアンプへつながれ、独立した出力を持っている。付属される 5 ピン -3 ピン×2 XLR ケーブルをもちいて、ミックス時に位相を反転したり、ゲインを調節することで異なるポーラパターンを作成することができる。



価格 ¥350,000- (税別)

■ RoswellProAudio miniK47 matched pair

ドラムのオーバーヘッドやピアノなどステレオ・ソースの録音に対応できるように mini K47 をステレオ・マッチングし、2 本一組のセットにしたもの。Roswell Pro Audio カリフォルニア本社工場では入念な測定を施し、感度 0.5 dB 以内、周波数特性 1.5 dB 以内という厳しい範囲基準でステレオ・マッチングを行う。ケースはマイクとショック・マウント 1 ペア(2 本分) が収まる特別仕様。受注発注製品。



価格 ¥92,000- (税別)

■ RoswellProAudio Colares

“コラレス”はロズウェルから新たにリリースされる 3 本目のラージダイアフラムマイクロフォン。Telefunken ELA M251 をベースにヴォーカルマイクとして開発された“コラレス”は Delphos と比べより太く、甘く、ヴィンテージ感の強いサウンドが特徴。他のロズウェルマイクと同様にカリフォルニアの工場で作業でのハンダづけ、チューニングを行う。



価格、発売時期未定

◆エーディテクノ：スケーリング機能搭載 業務用薄型 HDMI 2.0a 分配器を発売

株式会社エーディテクノは接続する映像表示機器の EDID と HDCP 対応状況を読み込み全自動変換出力が可能なダウンスケーリング機能、HDCP リビジョン変換機能を搭載した HDMI 2.0a 4 分配器 [型番: HUS-0104E] と 8 分配器 [型番: HUS-0108E] を 10 月 5 日 (金) より発売する。

HUS-0104E/HUS-0108E は、最大 4K@60 4:4:4 (18Gbps) の信号入力に対応。接続した映像表示機器の最大表示可能フォーマットや HDCP 対応状況が「4K@60 4:4:4 (18Gbps) / HDCP 2.2」 「1080p@60 / HDCP 1.4」等、混在した場合でも自動的に各接続映像表示機器の対応状況を認識、HDMI 出力ポート毎に各表示機器

に合ったフォーマットに変換し映像出力する。4K 液晶モニター (HDCP 2.2 対応) やフル HD 液晶モニター (HDCP 1.4 対応) 等、混在した接続環境でも接続された映像表示機器に適した映像フォーマットにて表示が可能となる。



HUS-0104E/HUS-0108E では、Ultra HD ブルーレイ規格の HDR (ハイダイナミックレンジ) 信号の入出力にも対応しダイナミックレンジを向上させた 質感豊かな映像の伝送に対応する。また、色域を従来に比べ広く再現できる x.v.Color (xvYCC)、より情報量の多い映像信号処理が対応可能な Deep Color や最大 7.1ch までの音声信号伝送に対応する。

その他、EDID オート& エミュレーション機能を搭載。6 種類の記録された EDID 情報、自動読み込み保持、または、ポート1 からの読み込み保持を本体DIP スイッチから計 8 種類選択が可能。HDMI ケーブルを抜き差しした場合や電源を切った場合でも EDID 喪失や誤認識による画面表示トラブルを回避し安定した信号出力が可能となる。電源 DC コネクタにはネジ式コネクタを採用し、ケーブルに足を引っかけてしまうなどの予期せぬ電源断を防止できるほか、大音量の低音が響く展示会やコンサートホール等での振動によるコネクタの脱落を防止する。また、最大2階層までのカスケード接続にも対応し最大 64 台までの HDMI シンク機器への映像表示が可能。

■製品概要

- ・4K@60 4:4:4 (18Gbps) 対応
- ・HDMI 信号を 4 分配 [HUS-0104E] / 8 分配 [HUS-0108E]
- ・HDCP 2.2 / 1.4 対応
- ・映像ダウンスケーリングと HDCP リビジョン変換機能
- ・HDR (ハイダイナミックレンジ) 信号対応
- ・x.v.Color (xvYCC) & Deep Color 対応
- ・EDID オート& エミュレーション機能搭載
- ・ネジ式電源 DC コネクタ採用
- ・壁面や床への設置に便利な固定用金具付属

型番:HUS-0104E [4 分配器] JAN コード:4582169234107

定価: オープン 想定価格 (税別):31,000 円前後

型番:HUS-0108E [8 分配器] JAN コード:4582169234114

定価: オープン 想定価格 (税別):60,000 円前後

◆テクノハウス：設備用スピーカー AI-100 販売開始

テクノハウスはBEC 社の設備用スピーカーAI-100 の販売を開始する。工業大国であるドイツならではの洗練されたデザインは従来までのゴツゴツとしたデザインとは異なり空間に馴染むスピーカーとなっており、商業施設や店舗、会社の待合室といった場所に最適。厚さ 20mm、幅37mm、重さ約 1kg (スピーカー1 本あたり) と非常にスリムになっており設置場所の選択肢が広がり、多彩な空間デザインを作り出す事が可能。

■仕様

定格電力:60W インピーダンス:4Ω 周波数範囲:120hz-20khz 幅:37mm 高さ:1006mm 厚み:20mm

重さ:約 1kg (スピーカー1 本あたり)

ハウジング:アルミ

カラーバリエーション:ホワイト

ドライバの数:3

キャパシタ:150 μf キャパシタ内蔵

付属品:スピーカーケーブル・木ネジ・アンカー・L 字金具

価格:¥ 120,000 (送料込み・税別)



◆RISCON TOKYO：危機管理産業展 2018 開催

10月10日(水)から12日(金)の3日間、東京ビッグサイトにおいて、国内最大級の危機管理ビジネストレードショー「危機管理産業展 (RISCON TOKYO)2018」を開催される。本展示会は「防災・減災」「セキュリティ」「事業リスク対策」の主要3分野がテーマ。西日本豪雨や北海道地震など、激甚化・頻発する自然災害、2020年の大規模国際イベントを控え対策が急がれるセキュリティ対策、新たな脅威となった「サイバー攻撃」など、あらゆるリスクに対処する最新の資機材やトレンドが勢揃いする。

会期:10月10日(水)~12日(金) 10:00~17:00

会場:東京ビッグサイト西ホール、会議棟

主催:株式会社東京ビッグサイト

特別協力:東京都

公式 WEB サイト: <http://www.kikikanri.biz/>

◆第31回東京国際映画祭は10月25日(木)~11月3日(土・祝)の10日間の開催期間中、約200本の映画が上映され、世界中から訪れる様々なゲストが多数登場し、Q&Aやトークショーなど映画祭ならではのイベントが目白押し。

※今年はクローゼイングの前日11月2日(金)に授賞式を行う。

第31回東京国際映画祭開催まで約1カ月と迫った9月25日、虎ノ門ヒルズメインホールにて各部門の全ラインナップ・審査委員・各イベントの魅力・見所を発表する記者会見を開催された。

イベント冒頭、久松猛朗フェスティバル・ディレクターより開催の挨拶と今回の企画や上映に関する発表があった。109の国と地域、1829本もの応募の中から16作品がコンペティション部門に選ばれ日本からも『愛がなんだ』と『半世界』の2作品が選出された。

ゲストとして、第31回東京国際映画祭アンバサダーを務める、女優の松岡茉優(まつおかまゆ)さん、『愛がなんだ』から、今泉力哉(いまいずみりきや)監督と主演の岸井ゆきの(きしいゆきの)さん、『半世界』から監督の阪本順治(さかもとじゅんじ)監督が登場した。さらにアニメーション特集「アニメーション監督 湯浅政明の世界」から湯浅政明(ゆあさまさあき)監督が登場した。



<https://2018.tiff-jp.net/ja/>